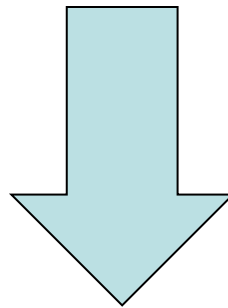

氾濫シミュレーションの 条件確認について

1. 「洪水リスク表示図の作成」における考え方
2. 「当面の治水目標の設定」における考え方

1. 「洪水リスク表示図の作成」における考え方

「今後の治水対策の進め方（報告書）」（平成22年6月、大阪府）における基本方針より、「現状での河川氾濫・浸水の危険性に対する府民の理解を促進する」ことを目的に、『**洪水リスク表示図**』の作成を行う。



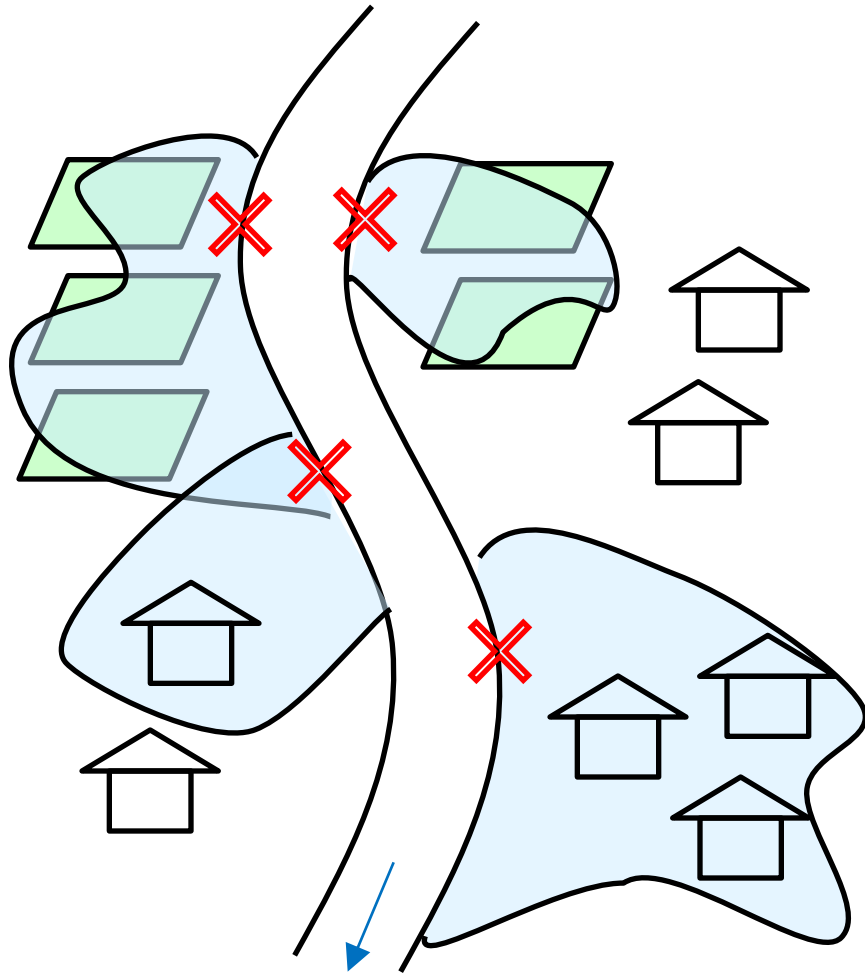
あらゆるリスクを表現するために、

全ての破堤候補地点の破堤を想定し、その浸水状況の重ね合わせ

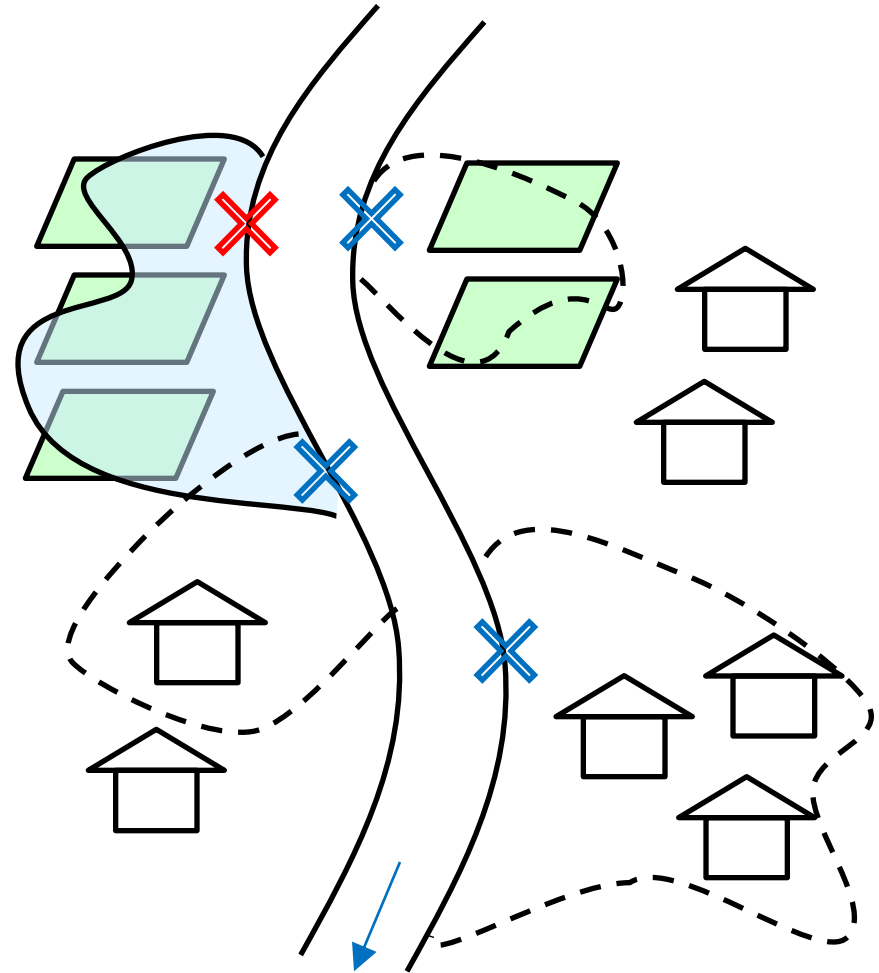
によって、図面を作成する。

1. 「洪水リスク表示図の作成」における考え方

全ての破堤候補地点の浸水状況の重ね合わせ図



1洪水による浸水状況 (例)



1洪水による浸水状況では、**浸水の危険性を表現できない可能性がある。**

1. 「洪水リスク表示図の作成」における考え方

実際の氾濫計算においては、

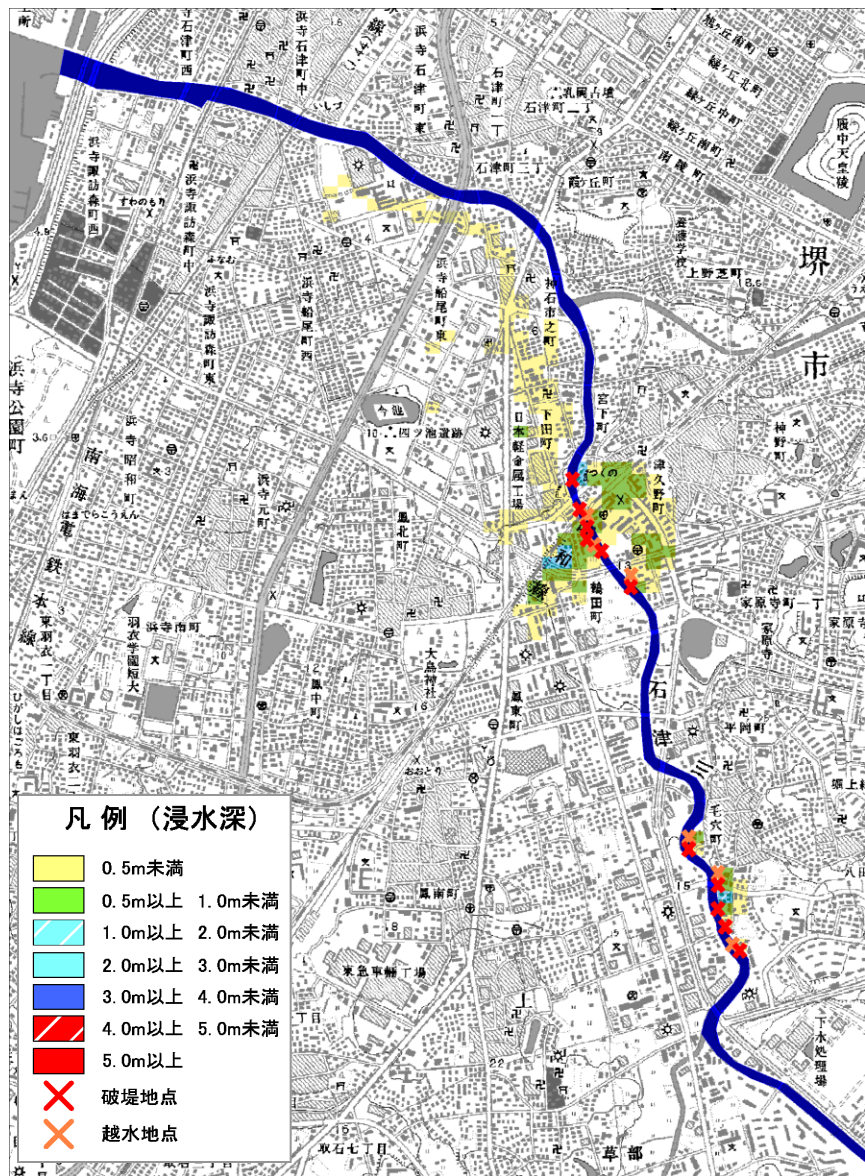
- ① 破堤候補地点の選定（物理的な越水による流量低減は考慮）
- ② 破堤候補地点のうち1地点のみが破堤することを想定して計算
（それ以外の地点では破堤は想定しない。（物理的な越水は考慮））
- ③ 全ての破堤候補地点で②の計算を行い、**その結果（浸水状況）を重ね合わせて、洪水リスク表示図を作成**

※ 破堤開始水位は「HWL」か「堤防天端高から余裕高を引いた高さ」のうち低い方としている。

※ 破堤については、不確実性があることから、上記のような条件設定を行っている。

2. 「当面の治水目標の設定」における考え方

1 地点毎破堤の重ね合わせによる浸水状況図



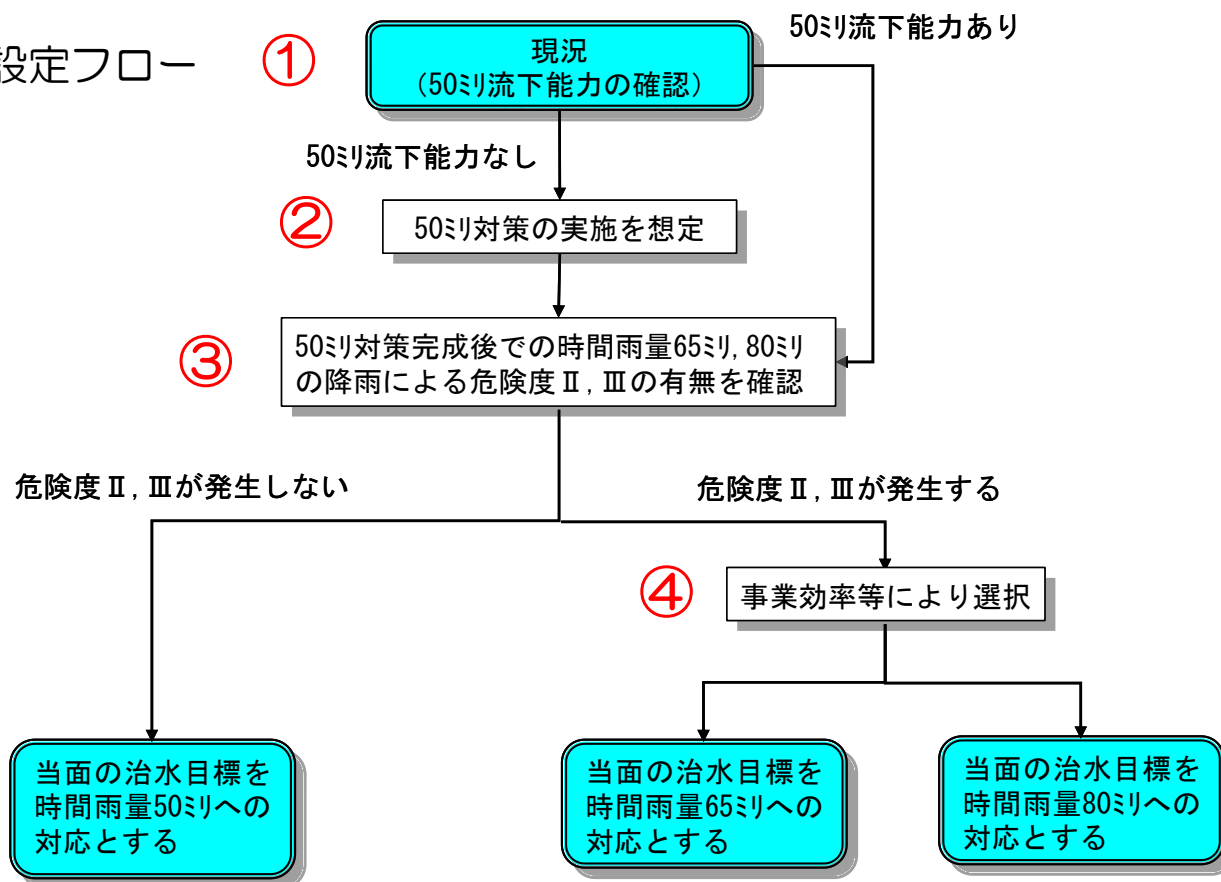
1 洪水による浸水状況図



2. 「当面の治水目標の設定」における考え方

「今後の治水対策の進め方（報告書）」（平成22年6月、大阪府）における基本方針より、「今後20～30年程度で目指すべき当面の治水目標（河川氾濫・浸水の危険性の低減目標）を設定・公表し、避難体制の強化などの減災対策、治水施設の保全・整備などにより、河川毎に効果的な治水手法を組み合わせ実施する」ことを目的に、『**当面の治水目標の設定**』を行う。

当面の治水目標の設定フロー



2. 「当面の治水目標の設定」における考え方

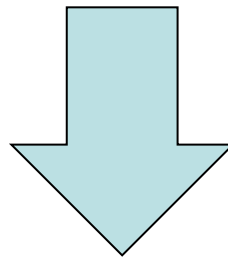
当面の治水目標の設定フロー

Step①：現況河道における50mm流下能力の有無を確認

Step②：Step①で流下能力が不足する場合には、50mm対策の完成を想定

Step③：50mm流下能力ありの状態で、65mm・80mmの降雨による**危険度Ⅱ、Ⅲ**
の有無を確認

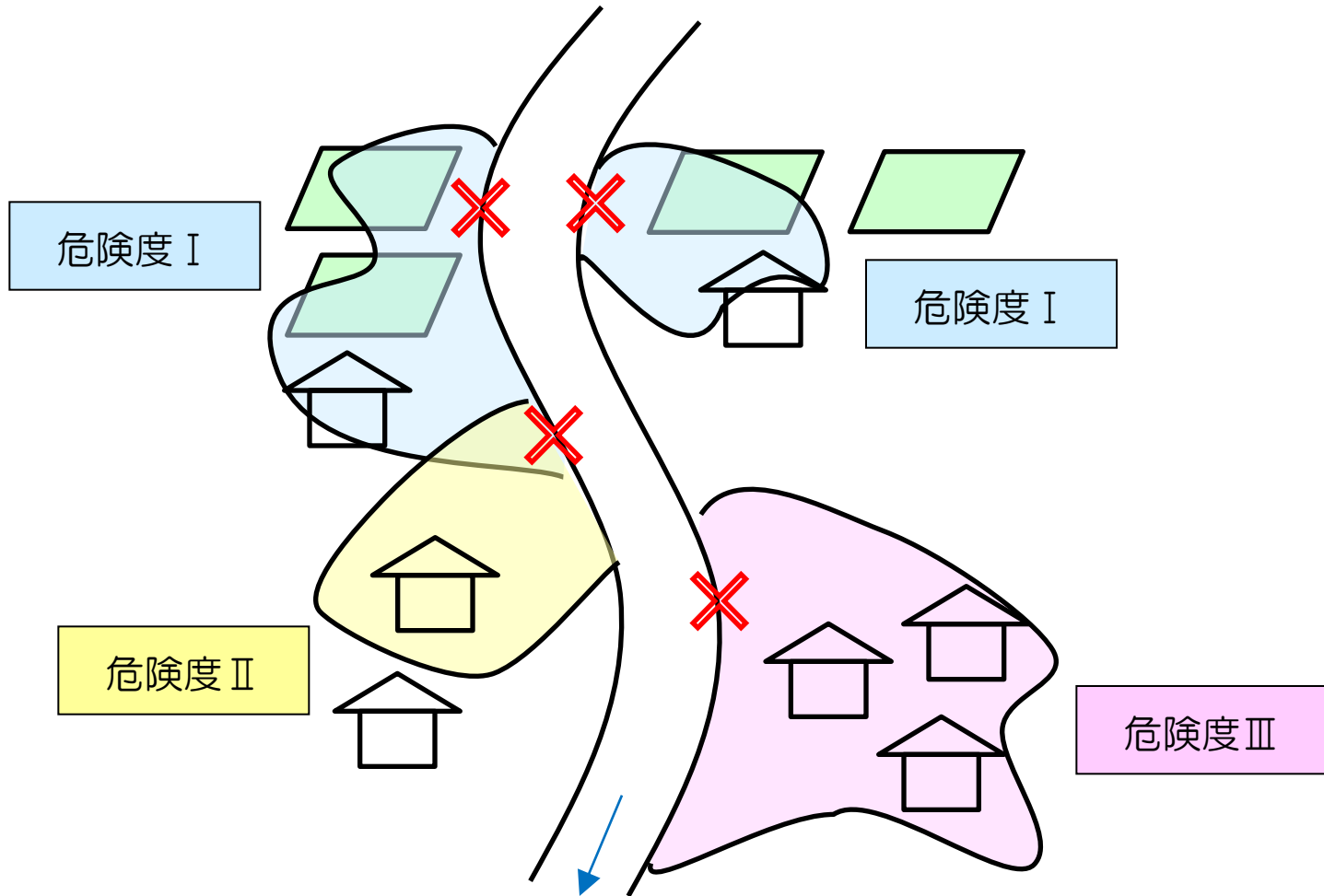
Step④：Step③で危険度Ⅱ、Ⅲが確認された場合には、**事業効率等**により
当面の治水目標を65mm対策か80mm対策のいずれかに設定



Step③及び④では、氾濫シミュレーション結果（1洪水による浸水状況）を用いて、判断を行う。

2. 「当面の治水目標の設定」における考え方

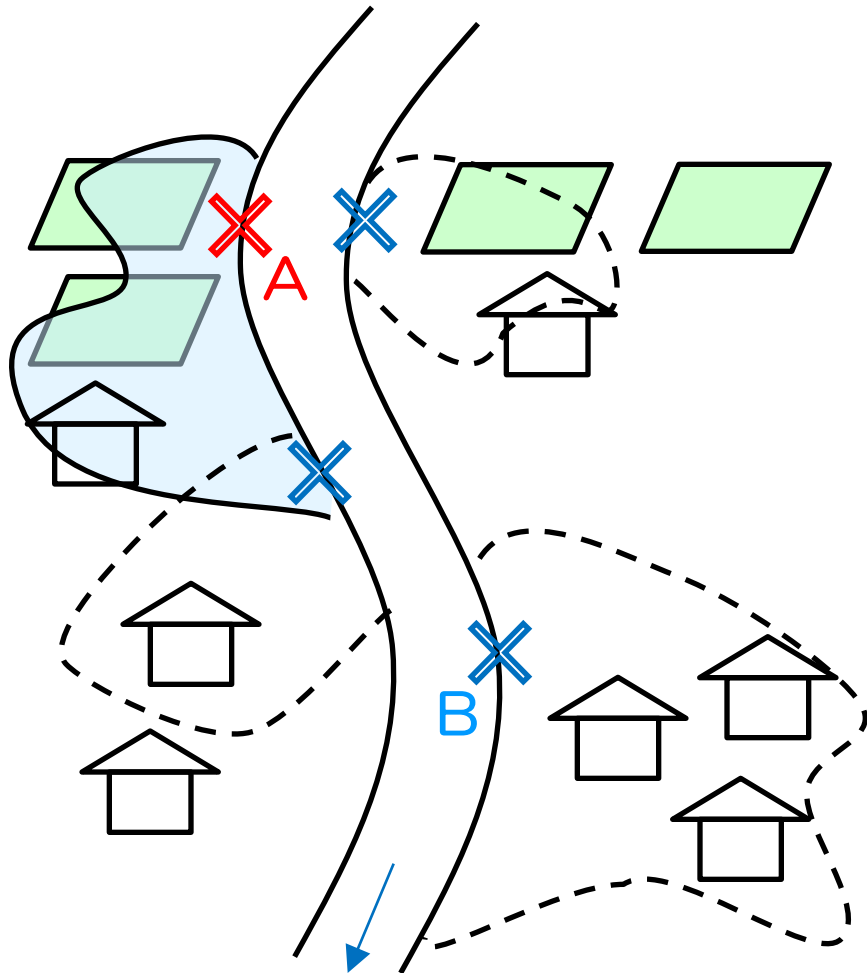
破堤候補地点毎の浸水状況の重ね合わせ
(洪水リスク表示図)



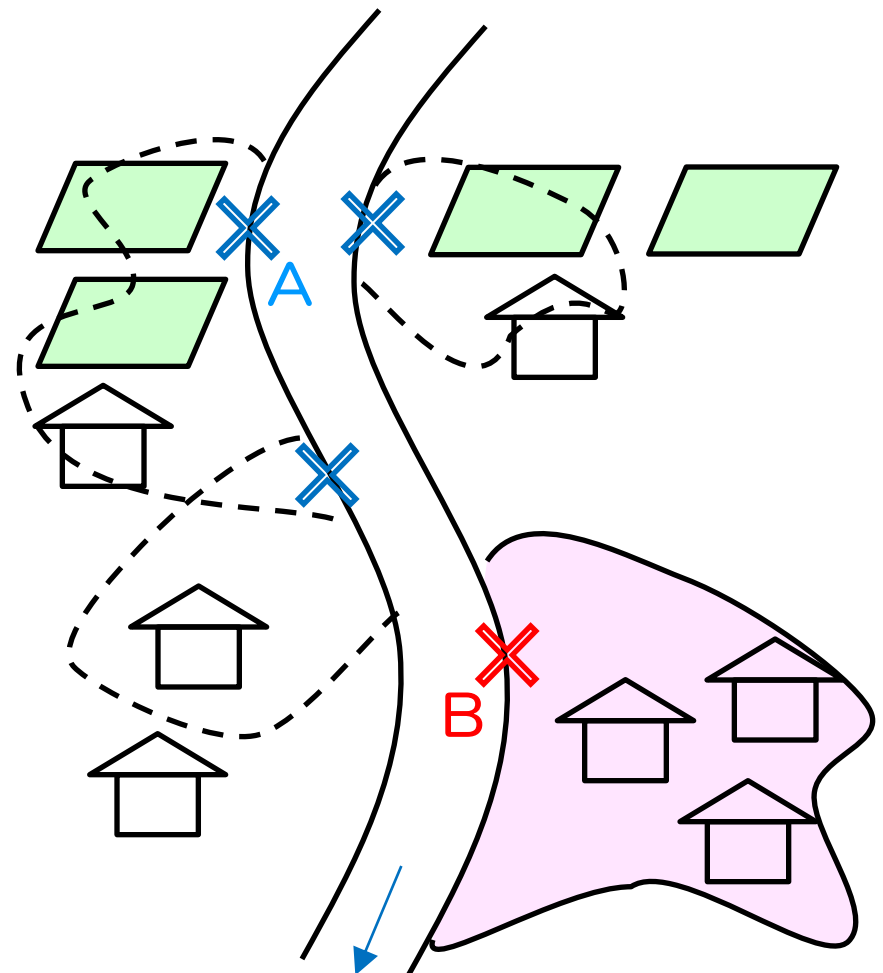
破堤地点によって、危険度の発生状況は異なる。

2. 「当面の治水目標の設定」における考え方

上流より順次破堤を想定
(破堤地点下流の破堤等についても想定)



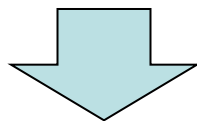
被害最大となる地点での破堤を想定
(破堤地点下流の破堤等についても想定)



2. 「当面の治水目標の設定」における考え方

上流より順次破堤を想定
 (破堤地点下流の破堤等についても想定)
 ※ 50mm対策後河道を想定

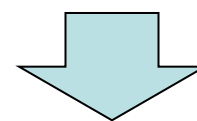
	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
65ミリ程度 (1/30)	被害あり	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (1/100)	被害あり	被害なし	被害なし
90ミリ程度 (1/200)	被害あり	被害あり	被害なし



当面の治水目標は、50mm対応

被害最大となる地点での破堤を想定
 (破堤地点下流の破堤等についても想定)
 ※ 50mm対策後河道を想定

	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
65ミリ程度 (1/30)	被害あり	被害あり	被害なし
80ミリ程度 (1/100)	被害あり	被害あり	被害あり
90ミリ程度 (1/200)	被害あり	被害あり	被害あり



当面の治水目標は、65mm or 80mm対応

1 洪水による被害から河川全体の当面の治水目標の設定を行う。
 ⇒ **被害最大となる1洪水を採用**

- ※ 上下流バランスを勘案しながら、(局所的に)治水対策区間の設定を行う。
- ※ 当面の治水目標が65mm or 80mm対応であっても、前項の事例では破堤地点A付近は50mm対応となる。

2. 「当面の治水目標の設定」における考え方

実際の氾濫計算においては、

- ① 破堤候補地点の選定（物理的な越水による流量低減は考慮）
- ② 破堤候補地点のうち1地点のみが破堤することを想定して計算
（それ以外の地点では破堤は想定しない。（物理的な越水は考慮））
- ③ 全ての破堤候補地点で②の計算を行い、**被害が最大となる破堤地点を選定**
- ④ 被害が最大となる破堤地点については、**破堤地点より下流の水位についても追跡を行い、下流側での被害についても想定**

※ 破堤開始水位は「HWL」か「堤防天端高から余裕高を引いた高さ」のうち低い方としている。

※ 破堤については、不確実性があることから、上記のような条件設定を行っている。